



★ ★ ★ ★ ★
COLUMN

That's so American!!

ノースカロライナ州から
さまざまな医療にまつわる出来事を紹介

第17回 サイバー攻撃の二次被害は 現場でおきている ～保険番号が変わっていた～

ノースカロライナ州メディケア・カウンセラー

アメリカ病院経営士会認定病院経営士 薬剤師（日本）河野圭子

アメリカでは、サイバー攻撃を受けた組織を通じて知らず知らずのうちに二次被害を受ける人が増えています。今回は、メディケア（高齢者健康保険）相談の現場で、サイバー攻撃の二次被害であるとは気づかなかった事例を紹介します。

メディケアの更新・変更時期と重なる

毎年10月から12月はメディケアの更新・変更期間です。この初日に、Aさんがメディケアの見直しに来られました。保険を選んで、公的保険変更のウェブサイトで、Aさんの保険番号を入力したところ、「該当なし」と表示されました。何度も確認して入力しても、結果は同じでした。

Aさんは、ふと思い出して、一昨日郵送されてきた新しい保険番号が記されたメディケア保険カードを見てくれました。このようなことは初めてだったため、詐欺郵便の可能性を考慮し、所定の部署に照会して確認を取りました。

理由は、政府または本人の希望により変更されたとのことでした。しかし、Aさんはそのような要請をしていないとのことでした。

1週間後、再び同様の事例が発生しました。相談者はウェブサイトの誤作動だと主張して、帰ってしまいました。確かに、この時期は手続きがピークで、ウェブサイトが誤作動する事があるので、Aさんの事例がなければ、私もそう思っていたかもしれません。

たまたまほかの相談員も同じ事例を持っていた

ますますおかしいと思いながら、相談員ランチ会（公では言いにくい現場の出来事が気軽に言える場）で、ベテランの相談員に先の事例を伝えました。なんと、この相談員も、同じ事例に遭遇しており、相談者が新しい保険カードと公式の手紙を持っていたため、ある保険機関がサイバー攻撃に遭い、相談者が二次被害を受けていたということが分かったそうです。

私たちは、この事例はまれで、ほかの相談員と共有するほどではないと判断していましたが、そうでないことが分かり、直ちに、この事例と対策を書いたメールをすべての相談員に送信しました。

新しいメディケア番号が発行された理由

ウィスコンシン州のメディケアの診療報酬支払代行業者のサーバーがサイバー攻撃を受け、約100万人（全体の1.5%）のメディケア被保険者の保険番号や個人情報が流出した疑いがでました。これを受けて、連邦政府は、これらの被保険者にメディケア番号を発行し、新しいカードを郵送中であると発表しました。

会社はウィスコンシン州にありますが、全米のメディケアのレセプトを処理するために、被害は全米に広がりました。報道に関しては、大統領選挙報道が優先され、このサイバー攻撃に関する報道は最小限で、多くの人が気づかなかった可能性があります。

サイバー攻撃の二次被害をいち早くキャッチできる仕組みづくり

今回の事例からサイバー攻撃による二次被害は、本人や周囲が気づきにくいことが分かりました。公的機関や報道からの情報が届かないことを想定すると、現場任せになります。

もし、医療機関が、今回のような二次被害に気づかないままでいると、保険番号にエラーが出て、保険請求に影響する可能性があります。医療機関の会計システムへのサイバー攻撃なのか、単なる誤作動なのか、理由を特定することは困難です。

今後、複雑化するサイバー攻撃やAI利用により、予測できない問題が出てくることが予想されます。そこで、このような問題をいち早くキャッチするために、通常は発生しないような事例を共有しやすい仕組みや職場づくりが求められていると感じました。④